

# L'aile d'Howl

【ライル・ドウル・ホウルの翼(伝語)】

2013年4月号



ついに不来方高校が全国の頂点に！  
昨年の悔しさをバネに努力した結果ですね。  
ハンドボール王国いわてをもっともっと  
盛り上げていきましょう

No.82



## 第2回箱崎カップ開催！燃えよ小学生



3月20日、花巻市総合体育館にて、箱崎カップ小学生ハンドボールゲームズが開催されました。県内の少年団交流大会として長年開催してきたこの大会が、岩手県ハンドボールの父である故箱崎敬吉先生の名を冠にしてから第2回目の開催となりました。今般低学年の入部者が増加していることに加え、試合でボールに触れる機会をできるだけ増やしてあげたい、という思いから、新たにU-8(小学校1・2年生の部)を設けました。まだまだボールにも慣れていない子供たちですが、上級生がない自分たちだけの試合でいつも以上に気合が入り、一生懸命ボールを追いかける姿に、会場からも暖かい眼差しが注がれていました。一方、高学年の試合となると、もはや中学生にも負けられないほどの試合運びとなり、観戦にいらした太田利彦県ハンドボール協会会長と箱崎玲子夫人も、そのレベルの高さに感心しきりでした。花巻クラブジュニアの試合についてご報告しますと、男子は

先日の大沼杯で見事優勝を飾った矢巾フェニックスに「もし勝てば事実上東北1位になれる！」という期待を胸に、今年度最後の試合に臨みましたが、残念ながら17-12で敗れ、秘かな夢を叶えることができませんでした。しかし、大沼杯で「全員得点」に絡むことができなかったGK太田達也選手が7Mスローでのシュートチャンスを得て、見事念願の1点を取ることができました。今回、残念ながら全員得点はできませんでしたが、後半最後まであきらめずに戦い抜いたみんなに大きな拍手を送りたいと思います。女子は、今年度ずっと負け続けていた矢巾フェニックスに勝つことを目指して試合に臨みましたが、最後の大会も残念ながらリベンジならずでした。試合後の閉会式では、箱崎玲子夫人より優勝カップが手渡され、暖かい言葉をかけられていました。また、大会終了後に開催された六年生を送る会では、みんな「中学校に行ってもハンドを続ける！」と熱い決意を語ってくれたので、これからも一生懸命頑張ってくれることを大いに期待したいと思います！



## 大西先生による講習会でみんなレベルアップ！



さて、箱崎カップの熱気が冷めやらないまま、高学年を対象とした「小学生レベルアップ講習会」が引き続き開催されました。国体に向けた強化費用を利用した今回の講習会は、元筑波大学男子ハンドボール部監督、元日本ハンドボール協会専務理事の大西武三先生をお招きし、約100名の小学生が参加して開催されました。午前中は箱崎カップと並行して高校生向けの講習会を行なっていたが、午後はその高校生がサポートに入りながら、小学生への指導を行って下さいました。最初に、映像を見ながらプレーのイメージを作ります。シュート後の倒れこみ姿勢や、バックパスなど、小学生では普段あまり見られないプレーをみて、子供たちの目も輝きます。その後、実際にラテラルパス、バックパス、そして倒れこみの動作などを練習しました。いろいろな動きを取り入れての練習に、子供たちも楽しそうに取り組んでいるのが印象的でした。最後は2対2の動きを高校生相手に練習し、自分たちで攻撃を考える取り組みをし

ました。時間の関係上、残念ながら予定していたミニゲームまで至りませんでした。約2時間の講習会が本当にあつという間でした。参加者を代表してお礼の挨拶をした大西亮太くん(矢巾フェニックス)は、「教えてもらったことを中学校でも活かして、素晴らしいプレーヤーになりたい」と話してくれました。今回の講習会は、小学生、高校生だけでなく、会場にいた指導者たちにとっても非常に有意義な講習会でした。大西先生、今回は素晴らしいご指導をありがとうございました。今度は、夏に花巻で開催される全日本マスターズ大会でお待ちしています！



## デンマーク仕込みのコーチング！吉村晃さん講習会 IN はなまき

3月25日、花巻市民体育館にて、東北地区高専による交流会が開かれ、特別講師を招いての講習会が催されました。今回花巻に来てくださったのは吉村晃氏。中京大でプレーした後、ハンドボールの本場デンマークへコーチ留学した方です。4月から日本リーグに所属する豊田合成のコーチ兼アナリストに就任が決まっており、日本リーグでのプレー歴がないコーチの登用ということで既に注目を集めている方です。この日会場に集まったのは、一関高専をはじめ、八戸、仙台広瀬、仙台名取、秋田高専の5校。高専入学後からハンドボールを始めた生徒がほとんどですが、本場で18歳以下の指導経験もある吉村氏は、非常に分かりやすく、そしてテンポよく講習会を進めて下さいました。ビデオ映像を使った指導では、世界選手権やブンデスリーガ、ヨーロッパ選手権など最新の映像も交え、ポイントを押さえて分かりやすく説明してくれました。実技指導も、非常にシンプルですが効率的で、かつ理にかなっている練習を紹介してくれました。



実技指導の後、夜には宿泊施設で吉村氏による講義も行われました。同じく最新の映像を駆使し、現在世界のトレンドとなっているスペインやフランスのDFなどについて解説していただきました。そして、その後の質疑応答では、生徒たちからもたくさん質問があったのですが、その中で私編集長が聞いた質問に対する答えをご紹介します。『デンマークで子どもたちを指導した際に心がけていたことは何ですか？』『いかに子どもたちをモチベートするかを常に心がけていた。スポーツとはレクリエーションの一部であり、万人に与えられた余暇を楽しむ権利である。ヨーロッパではその価値が非常に重んじられている。プロでもないのに罵声や怒号を浴びせるなど言語道断。日本では、「やる気がない」のは

子どもたち自身の問題のように捉えられることが多いが、ヨーロッパではモチベーションを上げられないコーチの腕不足。デンマークで初めて子どもたちに指導したとき、ある子が突然体育館を出て行って、お菓子を買ってきた。ヨーロッパの子どもたちは非常に正直で、つまらないものはつまらないとはっきり意思表示する。アジア人がコーチをするということだけでも興味のみで見られていたので、指導するときは常に、どうやって子どもたちのやる気を引き出すか、飽きさせずに楽しませるかに注力していた。そして、子どもたちが家に帰って眠りにつくときに、「今日の練習楽しかったな」と思うくらい、子どもたちのモチベーションを引き出そうと頑張っていた。私はこの言葉を聞いて、指導者として身の引き締まる思いでした。昨今、部活動や教育現場における体罰問題が取りざたされる中、特に私たちのような青少年を指導する立場のものは、スポーツの価値とコーチングの原点を改めて考えなければならない、と思いました。本場でコーチングを学んだ方から貴重な言葉を聞くことができただけでも、講習会を見学(取材)に行った価値があったと思います。吉村さん、本当にありがとうございました。

L'aile d'Howl (ライル・ドウル)  
2013年4月号  
2013年4月25日発行  
発行:花巻市ハンドボール協会